

## 編 集 後 記

多くの方々のご協力により「高体連 2020」を発刊することができました。お忙しいなかご寄稿いただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

予測困難であっても未来を信じ、高校生がひたむきに部活動に取り組む姿には深い感銘を覚えます。原稿のひとつひとつには、毎日の厳しい練習に精進した努力と苦勞の結晶が込められています。いろいろな立場から綴られた貴重な体験や感想には心から敬意を表します。また、このようなたくさんの人たちの協力で支えられ高体連の活動が成り立つことを再度痛感し、感謝しなければならないと強く感じております。

さて、2020年は東京オリンピック・パラリンピックイヤーとして、「いよいよ東京」の機運が盛り上がっています。国や文科省がスポーツ振興を強化するなか、徳島県においても「スポーツ王国とくしまづくり」の一層の充実がはかられており、「徳島県スポーツ推進計画」を進めながら、生涯スポーツ社会の実現と競技力向上の基盤づくりが拡大・強化されています。加えて、3大国際スポーツ大会を契機とするスポーツレガシーの創出など、本県スポーツ環境の大きな変革も期待されているところです。

一方で、スポーツ庁は平成30年に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、これまでのスポーツの在り方を質的に転換することを徹底しています。「休養日の設定」など、指導者の働き方改革に対する意識も高まりました。しかしながら、生徒のモチベーションや競技力の低下を懸念するなど、学校や競技の特性によっては実施が難しいのが現状です。これまで我が国の体育・スポーツ活動にとって大きな役割を果たしてきた部活動はまさに分岐点に立っています。それでも、生徒の健全な発達に部活動が果たす功績は多大であり、変化の時代にあっても不変であることは間違いのない事実です。

徳島のスポーツ振興成功の可否は、地域と連携しながら、本県選手たちと真正面に向き合う「高体連指導者の団結」にあると確信しております。今後もそのことを肝に命じ、成長する子どもたちのために、広報委員会として徳島のスポーツを支える選手・指導者の活動をみんなでサポートできるよう、誠心誠意尽力致します。

最後になりましたが、部活動に取り組む生徒たちが、夢や希望を決して諦めず、粘り強く取り組むことで人格形成をはかり、より一層の活躍ができるよう期待しています。加えて、未知の世界においても「地方創生の旗手」となり、本県高校スポーツ界を持続可能とする「人財」が一人でも多く輩出され、とくしま全体が元気になることを切に願ひ編集後記と致します。

どうか、暑さ、寒さの中くれぐれもお体をご自愛下さい。

2020年2月

広報委員会一同

### 高体連 2020

発 行	行	令和2年3月1日
題 字	字	讃岐泰泉
編 集	集	高体連広報委員会
発行責任者		藤井敬久
発 行 所		徳島県高等学校体育連盟
		〒772-0032
所 在 地		鳴門市大津町吉永595番地 鳴門渦潮高校内
電 話		(088) 635 - 2155
印 刷		グランド印刷株式会社